

**(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第 34 回 外的事象 PRA 分科会 議事録**

日 時： 2024 年 4 月 22 日(火) 13:30～16:00

場 所： Microsoft Teams 会議 接続情報は後記参照

配布資料

RK6SC 34-1	第 33 回外的事象 PRA 分科会議事録 (案)
RK6SC 34-2-1	人事について
RK6SC 34-2-2	外的事象 PRA 委員名簿 2024/4/22 版
RK6SC 34-3-1	外部ハザード選定標準 RKTC23-03_リスク専門部会書面投票_報告資料
RK6SC 34-3-2	外部ハザード選定標準:RK008 202x 標準改定案について
RK6SC 34-3-3	外部ハザード選定標準 書面投票意見コメント修正
RK6SC 34-3-4	外部ハザード選定標準 分科会追加コメント修正
RK6SC 34-3-5	外部ハザード選定標準 改定案 (追加コメント反映)
RK6SC 34-4-1-1	公衆審査 pub133 報告
RK6SC 34-4-1-2-1	地震 PRA 標準原案_誤記チェックの結果について
RK6SC 34-4-1-2-2	リ標準原案附属書 Z,AN との対比表
RK6SC 34-4-1-3	標準一式 最終版 r2
RK6SC 34-4-2-1	“評価適用事例集” 案の中間報告について
RK6SC 34-4-2-2-1	“評価適用事例集” リスク専門部会コメント対応表 (ハザード)
RK6SC 34-4-2-2-2	“評価適用事例集” リスク専門部会コメント対応表 (フラジリティ)
RK6SC 34-4-2-2-3	“評価適用事例集” リスク専門部会コメント対応表 (事故シーケンス)
RK6SC 34-4-2-3	“評価適用事例集” 分科会・作業会コメント対応表 (ハザード)
RK6SC 34-4-2-4	地震 PRA 技術レポート “評価適用事例集” 原案一式

議題：

1. 定足数確認, 資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 外部ハザードのリスク評価方法選定標準 改定 コメント対応
5. 断層変位 PRA 標準改定 趣意書
6. 地震 PRA 標準改定版 公衆審査結果及び誤記チェック対応
7. 原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準の評価適用事例” 改定 リスク専門部会コメント対応
8. その他、次回日程

出席委員(18 名)： 糸井主査 (東大)、桐本幹事 (電中研)、内山委員 (大成建設)、喜多委員 (東電 HD)、国政委員 (関電)、栗田委員 (東電設計)、越智委員候補 (中部電)、佐藤委員 (東芝 ESS)、砂川委員

(北海道電)、園山委員(テプシス)、西田委員(JAEA)、廣川委員(日立 GE)、泥谷委員(NEL)、美原委員(鹿島)、中島委員(電中研)、山野委員(JAEA)、三輪委員候補(MHI)、足立委員候補(大林組)

欠席委員(0名)：

出席常時参加者(3名)：高橋(鹿島)、根岸(原電エンジニアリング)、橋本(電中研)

欠席常時参加者(2名)：安達(テプシス)、倉本(NEL)

参加者：錦見(東北電力)(地震 PRA 作業会)、藤岡(日立 GE)(地震 PRA 作業会)

### (1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 18 名中 17 名(内、委員候補 3 名)が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。その後、18 名の出席が確認された。また、資料確認が行われた。

### (2) 前回議事録の確認

桐本幹事から、前回議事録の内容が説明され、誤字修正の上で承認された。

### (3) 人事について

断層変位 PRA 作業会の人事情報を追記したうえで承認された。

### (4) 外的ハザード評価方法選定標準 改定案コメント対応について

泥谷委員より、外的ハザード評価方法選定標準の改定案のリスク専門部会コメント対応及び標準改定案について説明が行われた。

今回の修正をもって、リスク専門部会の書面投票の回答とすることが了承された。

以下の議論があった。

- ・現状の実施基準の誤記に由来する修正コメント対応については、誤記対応として現行版の誤記修正は行わず、今回の 2024 年版改訂版の発行をもって修正することとした。

### (5) 断層変位 PRA 標準 改定作業について

糸井主査より、断層変位 PRA 標準の改定作業に状況について説明が行われた。

以下の議論があった。

- ・能登半島地震を受けて、隆起についてと重畳についての取り扱いが議論された。

→隆起は地震 PRA 標準の箇条 11 で巨大地震での隆起について取り扱っている。

→それ以外の隆起をどう読めばよいのかを地震 PRA 作業会でも確認をして欲しい。

→ 確認の結果、海溝型だけでなく地殻内地震型もあつかえる事がわかった。しかし、事例が少ないため今後の検討も必要。

・技術レポートに反映可能なものは追記していくこととする。

## **(6) 地震 PRA 標準 公衆審査及び誤記チェック対応について**

地震 PRA 作業会根岸幹事より、公衆審査結果、及び誤記チェックについて報告された。今回の報告により、本対応内容でリスク専門部会および標準委員会まで報告することが了承された。

## **(7) 地震 PRA 標準 評価適用事例の中間報告案及びコメント対応について**

地震 PRA 作業会の錦見委員、より、適用評価事例の中間報告案およびコメント対応について報告された。各パートのコメント対応については高橋委員（ハザード）、錦見委員（フラジリティ）、藤岡委員（事故シーケンス）より説明が行われた。

今回の対応により標準委員会の中間報告に進み、大きなコメントがなければリスク専門部会の最終報告に進むことが承認された。

以下の議論があった。

・議論しているという説明のあったところは、分科会としては事後確認の形になるので、メール審議とするか。

→ GW 明けで時間がかかるので、三役で確認をしていただきたい。

・安全係数のところで F1 の対数標準偏差を 0.3 とするという議論はそのような論文があったのか。

→ 地震動の不確かさを考慮しないとなっていたが、考慮したほうが良いということとなり、計算事例の作成のために設定したもの。ただし、入れるべきか入れないべきかを見極めないといけないが、現時点では入れている。

・議論としては難しいところなのでうまくまとめて欲しい。

## **(8) その他、次回日程**

・IAEA の動向について、SMiRT での講演「SAFETY EVALUATION OF NUCLEAR INSTALLATIONS AGAINST HAZARD COMBINATIONS INDUCED BY EXTERNAL EVENTS」が主査より提供された。

・次回は 2024/7/25 14:00～ Teams 会議で実施予定。分科会終了後すぐ会議設定をする。

以上